

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-37715

(P2010-37715A)

(43) 公開日 平成22年2月18日(2010.2.18)

(51) Int.Cl.

E O 4 B 2/74 (2006.01)

F I

E O 4 B 2/74 5 4 1 A

E O 4 B 2/74 5 3 1 A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 17 頁)

(21) 出願番号 特願2008-197893 (P2008-197893)
 (22) 出願日 平成20年7月31日 (2008.7.31)

(71) 出願人 000001351
 コクヨ株式会社
 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号
 (74) 代理人 100085338
 弁理士 赤澤 一博
 (72) 発明者 松尾 泰久
 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨファニチャー株式会社内
 (72) 発明者 柘植 桂樹
 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨファニチャー株式会社内
 (72) 発明者 松里 久鑑
 大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨファニチャー株式会社内

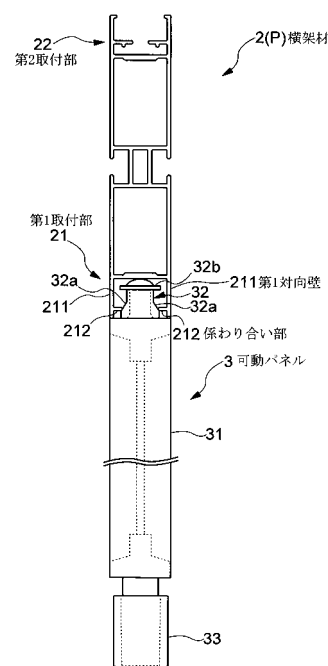
(54) 【発明の名称】 横架材

(57) 【要約】

【課題】 取付部に対する取付構造が異なる複数種類のオプション部材を好適に取り付けることが可能な横架材を提供する。

【解決手段】 複数種類のオプション部材のうち一又は複数のオプション部材(可動パネル3、簾スクリーン4、ロールスクリーン5)を取り付けるための第1取付部21と、第1取付部21に対して上下方向に離間し、第1取付部21に取付可能なオプション部材とは異なる他のオプション部材(クリアパネル6、ホワイトボードパネル7、タッカブルパネル8、照明装置)を取り付けるための第2取付部22とを備えてなり、取り付けるオプション部材に応じて、第1取付部21を下端部側に位置付けた第1姿勢(P)と、第2取付部22を下端部側に位置付けた第2姿勢(Q)との間で上下反転可能なものとした。

【選択図】 図6



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

隣接する支柱の上端部間に配され、且つ複数種類のオブション部材が取付可能な横架材であって、

前記複数種類のオブション部材のうち一又は複数のオブション部材を取り付けるための第 1 取付部と、

当該第 1 取付部に対して上下方向に離間し、且つ前記複数種類のオブション部材のうち前記第 1 取付部を取付可能なオブション部材とは異なる他のオブション部材を取り付けるための第 2 取付部とを備えてなり、

取り付けるオブション部材に応じて、前記第 1 取付部を下端部側に位置付けた第 1 姿勢と、前記第 2 取付部を下端部側に位置付けた第 2 姿勢との間で上下反転可能なものであることを特徴とする横架材。

10

【請求項 2】

前記第 1 取付部が、厚み方向に対向する一对の第 1 対向壁と、これら各第 1 対向壁の内向面に設けられオブション部材の一部に係わり合う係わり合い部とを備えたものであり、

前記第 2 取付部が、厚み方向に対向する一对の第 2 対向壁と、これら各第 2 対向壁間に形成されオブション部材の一部又は全部が収容可能な収容部とを備えたものである請求項 1 記載の横架材。

【請求項 3】

前記係わり合い部が、前記オブション部材をスライド移動可能に支持するスライド移動案内部としても機能するものである請求項 2 記載の横架材。

20

【請求項 4】

前記第 1 対向壁及び前記第 2 対向壁が、外見上同一又は略同一である請求項 2 又は 3 記載の横架材。

【請求項 5】

前記第 1 対向壁と前記第 2 対向壁との間にスリットを形成し、各第 1 対向壁単体及び各第 2 対向壁単体に、前記第 1 取付部及び第 2 取付部を取付可能なオブション部材とはさらに異なるオブション部材を、その一部を前記スリット内に挿入した状態で取付可能に構成している請求項 2、3 又は 4 記載の横架材。

30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、支柱の上端部間に支持される横架材に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

近時、オフィス等において所定の作業空間を他の空間と仕切り得るように、その作業空間を、複数の支柱とそれら支柱の上端部間に亘って設けられる横架材とを備えたフレーム構造体によって形成する態様が知られている。

【0003】

横架材は、下方に開口する開口部を幅方向に沿って連続して有する取付部を備えたものであり、この取付部に、パネル等のオブション部材を取付可能に構成している（例えば特許文献 1 参照）。

40

【特許文献 1】特開 2000—175338 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、上述した態様は、パネルや照明装置等のオブション部材を取り付ける対象が、横架材における単一の取付部のみであるため、多種類のオブション部材を横架材に付帯させたい場合、それら全種類のオブション部材が共通の取付部を取付可能な構造を有

50

するものでなければならず、逆に、横架材側からみれば、単一の取付部を全種類のオプション部材が取付可能な構造にしなければならず、横架材及び各種オプション部材の双方にとって設計自由度が制約されるという不具合があった。

【0005】

本発明は、このような課題に着目してなされたものであって、主たる目的は、取付部に対する取付構造が異なる複数種類のオプション部材を好適に取り付けることが可能な横架材を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

すなわち、本発明の横架材は、隣接する支柱の上端部間に配され、且つ複数種類のオプション部材が取付可能なものであって、前記複数種類のオプション部材のうち一又は複数のオプション部材を取り付けるための第1取付部と、当該第1取付部に対して上下方向に離間し、且つ前記複数種類のオプション部材のうち前記第1取付部に取付可能なオプション部材とは異なる他のオプション部材を取り付けるための第2取付部とを備えてなり、取り付けるオプション部材に応じて、前記第1取付部を下端部側に位置付けた第1姿勢と、前記第2取付部を下端部側に位置付けた第2姿勢との間で上下反転可能なものであることを特徴とする。

【0007】

このようなものであれば、第1取付部に取付可能なオプション部材を横架材に取り付ける場合には、横架材を第1姿勢の状態支柱の上端部間に配置すればよく、一方、第2取付部に取付可能なオプション部材を横架材に取り付ける場合には、横架材を上下反転させて第2姿勢の状態支柱の上端部間に配置すればよい。横架材に取り付けるオプション部材の種類が多種に亘る場合であっても、全てのオプション部材が同一の取付対象部（単一の取付部）にのみ取付可能なものでなければならないという制約が生じず、取付構造が異なる複数種類のオプション部材を、横架材を上下反転させることにより好適に取り付けることができる。そして、このことは、横架材にとって、全種類のオプション部材が取付可能な取付部にしなければならないという制約がなくなり、例えば、多種のオプション部材を、各オプション部材に要求される機能や用途等に応じて2グループに分類し、第1取付部を一方のグループに属するオプション部材の取付に適した構造とするとともに、第2取付部を他方のグループに属するオプション部材の適した構造とすることが可能となり、各種オプション部材の良好な取付状態の実現に多いに寄与する。

【0008】

特に、前記第1取付部が、厚み方向に対向する一对の第1対向壁と、これら各第1対向壁の内向面に設けられオプション部材の一部に係わり合う係わり合い部とを備えたものであり、前記第2取付部が、厚み方向に対向する一对の第2対向壁と、これら各第2対向壁間に形成されオプション部材の一部又は全部が収容可能な収容部とを備えたものであれば、これら係わり合い部及び収容部を利用して各オプション部材の良好な取付状態を確保することができる。また、オプション部材の取付に積極的に寄与するこれら係わり合い部及び収容部がそれぞれ対をなす第1対向壁、第2対向壁によって外部から視認できない又は視認し難いため、看者に煩雑な印象を与えないシンプルな外観を呈するものとなる。

【0009】

さらに、オプション部材の中には、取付部に取り付けた状態で横架材の幅方向に沿ってスライド移動可能なものであることが要求されるものもあれば、このようなスライド移動が要求されないものもあり、従来のように例えば単一の取付部に案内レールを設け、この案内レールに沿ってオプション部材のスライド移動を案内させる態様とした場合、スライド移動が要求されないオプション部材をこの取付部に取り付ける場合には案内レールがえって邪魔になる或いは過剰スベックに陥るという不具合が生じる。一方、本発明の横架材は、前記係わり合い部が、前記オプション部材をスライド移動可能に支持するスライド移動案内部としても機能するものであるため、スライド移動が要求されるオプション部材は第1取付部に取り付けることによって、その機能を発揮し得るものとなる上に、別途専

10

20

30

40

50

用のスライド移動案内部を設ける必要がなく、構造の簡略化及びコストの削減に資する。また、スライド移動が要求されないオプション部材は第２取付部の収容部を利用して横架材に取り付けられればよく、この際、スライド移動案内部がスライド移動が要求されないオプション部材の取り付けに支障を来たすことがない。

【００１０】

また、前記第１対向壁及び前記第２対向壁が、外見上同一又は略同一であれば、支柱の上端部間に横架材を第１姿勢又は第２姿勢の何れの姿勢で支持させても、外見上に差異が表れず、例えば、複数の横架材を配設したオフィス空間において、各横架材の姿勢が異なっているとしても看者に煩雑な印象を与えることがなく、統一感のあるシンプルな印象を与えるものとなる。

10

【００１１】

加えて、前記第１対向壁と前記第２対向壁との間にスリットを形成し、各第１対向壁単体及び各第２対向壁単体に、前記第１取付部及び第２取付部に取付可能なオプション部材とはさらに異なるオプション部材を、その一部を前記スリット内に挿入した状態で取付可能に構成していれば、スリットにより、第１対向壁と第２対向壁とが非連続的なものとなり、オプション部材の一部をスリット内に挿入した状態で各第１対向壁単体及び各第２対向壁単体に取り付けた際に、オプション部材同士が干渉することを回避することができる。とともに、第１取付部に取付可能なオプション部材や第２取付部に取付可能なオプション部材とはさらに異なるオプション部材を横架材の高さ方向に並べる態様、第１対向壁又は第２対向壁の何れか一方にのみオプション部材を取り付ける態様等、種々の使用態様にも柔軟に対応することができる。

20

【発明の効果】

【００１２】

以上説明したように本発明によれば、取付部に対する取付構造が異なる複数種類のオプション部材を好適に取り付けることが可能な横架材を提供することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１３】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。

【００１４】

本実施形態に係る横架材２は、図１及び図２に示すように、隣接する支柱１の上端部間に配されるものである。そして、これら支柱１及び横架材２によって囲まれた空間を作業空間として他の空間と仕切り得るフレーム構造体Ｘ（空間構成設備）を構成している。このフレーム構造体Ｘ（空間構成設備）は、図１に示す構成を単位モジュールとし、このような単位モジュールを複数接続することが可能なものである。

30

【００１５】

支柱１は、図１～図４に示すように、概略円柱状をなす支柱本体１１と、この支柱本体１１の外方に取り付け可能な支柱用カバー１２と、支柱本体１１の下方に設けられる支柱用アジャスタ１３とを備えたものである。

【００１６】

支柱本体１１は、内壁１１１と、この内壁１１１の外方に離間して設けた外壁１１２と、これら内壁１１１及び外壁１１２を接続するリブ１１３とを備えた二重壁構造をなし、内壁１１１、外壁１１２、及びリブ１１３により区成される空洞１１ｓを有する。さらに、外壁１１２には、空洞１１ｓを外部に連通させるためのスリット１１ｔを有する。このスリット１１ｔは、所定間隔、本実施形態では４５度又は略４５度間隔で間欠的に設けている。また、このスリット１１ｔから空洞１１ｓ内に配線などを挿入することによって、この空洞１１ｓを配線挿通空間として使用可能にしている。支柱用カバー１２は、支柱本体１１の外壁１１２の外面と対向するカバー本体１２１と、このカバー本体１２１から内方に突出しスリット１１ｔと係わり合い可能な係止部１２２とを備えたものである。なお、本実施形態では、図１に示すように、この支柱１を平面視矩形のコーナーに該当する箇所

40

50

【 0 0 1 7 】

横架材 2 は、図 1 及び図 2 に示すように、直線状に延出する長尺のものであり、本実施形態では押し出し成形により形成している。この横架材 2 は、複数種類のオブション部材が取付可能なものであり、図 5 に示すように、複数種類のオブション部材のうち又は複数のオブション部材を取り付けるための第 1 取付部 2 1 と、第 1 取付部 2 1 に対して上下方向に離間し、且つ複数種類のオブション部材のうち前記第 1 取付部 2 1 に取付可能なオブション部材とは異なる他のオブション部材を取り付けるための第 2 取付部 2 2 とを備え、第 1 取付部 2 1 を下端部側に位置付けた第 1 姿勢 (P) と、第 2 取付部 2 2 を下端部側に位置付けた第 2 姿勢 (Q) との間で上下反転可能なものである。なお、図 5 には第 1 姿勢 (P) にある横架材 2 を示している。第 1 取付部 2 1 及び第 2 取付部 2 2 は横架材 2 の高さ方向中央部を挟んだ対称位置に設けられており、以下、各取付部 (第 1 取付部 2 1 、第 2 取付部 2 2) の説明において、横架材 2 の高さ方向中央部側を「基端部」側とし、その反対側 (高さ方向中央部から離間した側) を「先端部」側としている。なお、図 5 は、図 4 における x - x 線端面図であり、作図上ハッチを省略している。

10

【 0 0 1 8 】

第 1 取付部 2 1 は、横架材 2 の厚み方向に対向する一对の第 1 対向壁 2 1 1 と、これら各第 1 対向壁 2 1 1 のうち相互に向き合う内向面に設けられオブション部材の一部に係わり合う一对の係わり合い部 2 1 2 と、第 1 姿勢 (P) において下方に開口する第 1 開口部 2 1 3 とを備えたものである。一对の係わり合い部 2 1 2 は、第 1 開口部 2 1 3 の開口縁、換言すれば各第 1 対向壁 2 1 1 の先端部よりも横架材 2 の高さ方向中央部側へ寄った位置から相寄る方向に突出したものである。本実施形態では、第 1 取付部 2 1 を構成する一对の第 1 対向壁 2 1 1 を利用して、後述する取付部材 J 1 が挿入可能な取付部材挿入空間 2 3 を形成している。取付部材挿入空間 2 3 は、前記係わり合い部 2 1 2 よりもさらに横架材 2 の高さ方向中央部側へ寄った位置において第 1 対向壁 2 1 1 同士を接続する第 1 接続壁 2 3 1 と、第 1 接続壁 2 3 1 よりもさらに横架材 2 の高さ方向中央部側へ寄った位置において第 1 対向壁 2 1 1 同士を接続する第 2 接続壁 2 3 2 と、一对の第 1 対向壁 2 1 1 によって区成された空間である。なお、第 2 接続壁 2 3 2 を、各第 1 対向壁 2 1 1 の基端部よりも第 1 開口部 2 1 3 側に寄った位置に設けている。換言すれば、各第 1 対向壁 2 1 1 の基端部を第 2 接続壁 2 3 2 よりも横架材 2 の高さ方向中央部側へ突出させている。

20

【 0 0 1 9 】

一方、第 2 取付部 2 2 は、横架材 2 の厚み方向に対向する一对の第 2 対向壁 2 2 1 と、これら各第 2 対向壁 2 2 1 間に形成されオブション部材の一部又は全部が収容可能な収容部 2 2 2 と、第 1 姿勢 (P) において上方に開口する第 2 開口部 2 2 3 とを備えたものである。この第 2 開口部 2 2 3 の開口方向は、横架材 2 の高さ方向に沿って前記第 1 開口部 2 1 3 の開口方向と反対である。収容部 2 2 2 は、第 2 開口部 2 2 3 の開口縁、換言すれば各第 2 対向壁 2 2 1 の先端部よりも横架材 2 の高さ方向中央部側へ寄った位置から相寄る方向に突出した一对の突出壁 2 2 2 a と一对の第 2 対向壁 2 2 1 によって囲まれた収容スペース 2 2 2 s を有するものである。本実施形態では、第 2 対向壁 2 2 1 の先端部から突出壁 2 2 2 a までの離間寸法を、前記第 1 取付部 2 1 における第 1 対向壁 2 1 1 の先端部から係わり合い部 2 1 2 までの離間寸法よりも大きく設定している。すなわち、突出壁 2 2 2 a を、係わり合い部 2 1 2 よりも相対的に横架材 2 の高さ方向中央部側へ寄った位置に設け、収容スペース 2 2 2 s の奥行き寸法を大きく設定している。また、本実施形態では、第 2 開口部 2 2 3 の開口縁、換言すれば各第 2 対向壁 2 2 1 の先端部に、第 2 開口部 2 2 3 の開口寸法を狭める方向に突出し、オブション部材の一部が当接又は近接する一对の当たり部 2 2 1 a を設けている。この第 2 取付部 2 2 を構成する一对の第 2 対向壁 2 2 1 を利用して、後述する取付部材 J 1 が挿入可能な取付部材挿入空間 2 4 を形成している。この取付部材挿入空間 2 4 は前述した取付部材挿入空間 2 3 と同一のものである。つまり、取付部材挿入空間 2 4 は、前記突出壁 2 2 2 a よりもさらに横架材 2 の高さ方向中央部側へ寄った位置において第 2 対向壁 2 2 1 同士を接続する第 1 接続壁 2 4 1 と、第 1 接続壁 2 4 1 よりもさらに横架材 2 の高さ方向中央部側へ寄った位置において第 2 対向

30

40

50

壁 2 2 1 同士を接続する第 2 接続壁 2 4 2 と、一对の第 2 対向壁 2 2 1 とによって区成された空間である。なお、第 2 接続壁 2 4 2 を、各第 2 対向壁 2 2 1 の基端部よりも第 2 開口部 2 2 3 側に寄った位置に設けている。換言すれば、各第 2 対向壁 2 2 1 の基端部を第 2 接続壁 2 4 2 よりも横架材 2 の高さ方向中央部側へ突出させている。

【 0 0 2 0 】

対をなす第 1 対向壁 2 1 1 間の離間寸法と、対をなす第 2 対向壁 2 2 1 間の離間寸法とは、相互に同一又は略同一であるとともに、第 1 対向壁 2 1 1 の高さ寸法と、第 2 対向壁 2 2 1 の高さ寸法とは、相互に同一又は略同一である。すなわち、第 1 対向壁 2 1 1 及び第 2 対向壁 2 2 1 は、外見上同一又は略同一である。

【 0 0 2 1 】

横架材 2 は、第 1 対向壁 2 1 1 と第 2 対向壁 2 2 1 との間にスリット 2 5 を形成し、第 1 取付部 2 1 及び第 2 取付部 2 2 に取付可能なオプション部材とはさらに異なるオプション部材を、その一部を前記スリット 2 5 内に挿入した状態で取付可能に構成している。本実施形態では、前記第 2 接続壁 2 3 2 と前記第 2 接続壁 2 4 2 とを対をなす連結壁 2 6 によって連結している。そして、各第 1 対向壁 2 1 1 と各第 2 対向壁 2 2 1 との間にそれぞれスリット 2 5 を形成し、この一对のスリット 2 5 を、横架材 2 の厚み方向に相反する方向に開口する凹溝の開口縁とみなした場合、各連結壁 2 6 は各凹溝の底壁とみなすことができる。スリット 2 5 は横架材 2 の長手方向全域又は略全域に亘って連続して形成されている。スリット 2 5 の開口高さ寸法、換言すれば第 1 対向壁 2 1 1 の基端部と第 2 対向壁 2 2 1 の基端部との離間寸法は横架材 2 の長手方向全域又は略全域に亘って同一又は略同一である。

【 0 0 2 2 】

本実施形態では、図 1 及び図 2 に示すように、4 本の横架材 2 をそれぞれ隣接する支柱 1 の上端部間に設け、これら横架材 2 及び支柱 1 によって立方体状をなすフレーム構造体 X を構成し、このフレーム構造体 X (空間構成設備) に囲まれた空間を作業空間として区画するようにしている。

【 0 0 2 3 】

支柱 1 と横架材 2 とは接続部 J を介して接続され、相互に拘束しあって自立性を確保している。

【 0 0 2 4 】

接続部 J は、図 3 及び図 4 等 に示すように、横架材 2 の側端部に設けられ、支柱 1 に直接取り付けられる取付部材 J 1 と、支柱 1 の内壁 1 1 1 に添接したナット部材 J 2 と、取付部材 J 1 を支柱 1 の内壁 1 1 1 及び外壁 1 1 2 を介してナット部材 J 2 に緊締するための取付部材固定ボルト J 3 とを備えたものである。

【 0 0 2 5 】

取付部材 J 1 は、支柱 1 の外壁 1 1 2 に当接可能な当接部 J 1 1 と、この当接部 J 1 1 から横架材 2 の長手方向に突出させて設けたり前記横架材 2 の各取付部材挿入空間 2 3、2 4 に挿入可能な一对の横架材支持部 J 1 2 と、支柱 1 のスリット 1 1 t に嵌合して支柱 1 に対する取付部材 J 1 の周方向の位置決めを行うための嵌合凸部 J 1 3 とを有する。

【 0 0 2 6 】

横架材支持部 J 1 2 には、取付部材固定ボルト J 3 をナット部材 J 2 に螺着させた状態で取付部材固定ボルト J 3 の頭部を収納するねじ頭収納部 J 1 2 a と、支柱 1 に向かうとともにこの取付部材 J 1 の高さ方向中央に向かい傾斜する方向に取付部材固定ボルト J 3 を螺進退可能にすべく該方向に延伸するボルト挿通孔 J 1 2 b とを上下両側に設けている。本実施形態では、一对の横架材支持部 J 1 2 を、それぞれ上下反転させた姿勢で各取付部材挿入空間 2 3、2 4 にそれぞれ挿入しているため、上下のボルト挿通孔 J 1 2 b は、取付部材固定ボルト J 3 の軸心を支柱 1 の外面の法線に対して線対称となす方向にそれぞれ延伸している。

【 0 0 2 7 】

嵌合凸部 J 1 3 は、本実施形態では当接部 J 1 1 の上下両端部から支柱 1 に向けて突出

10

20

30

40

50

していて、上述したように、支柱 1 のスリット 1 1 t に嵌合して取付部材 J 1 の支柱 1 の周方向の位置決めを行う。

【 0 0 2 8 】

そして、横架材 2 の第 1 接続壁 2 3 1、第 1 接続壁 2 4 1 にそれぞれ設けたねじ挿通孔 2 3 1 a、2 4 1 a から挿入した雄ねじ J 1 4 を、横架材支持部 J 1 2 に形成した雌ねじ孔 J 1 2 c にねじ込むことによって取付部材 J 1 と横架材 2 とを一体的に取り付けている。

【 0 0 2 9 】

ナット部材 J 2 は、支柱 1 の内壁 1 1 1 に添接させてなり取付部材固定ボルト J 3 と螺合可能な雌ねじ孔 J 2 1 a を有するナット部材本体 J 2 1 と、このナット部材本体 J 2 1 の上端から延伸して設けてなり、支柱 1 の内壁 1 1 1 の上端部に引っ掛けることが可能な係止爪 J 2 2 とを具備する。前記雌ねじ孔 J 2 1 a は、上下一対に設けている。

10

【 0 0 3 0 】

そして、取付部材 J 1 のボルト挿通孔 J 1 2 b に挿入した取付部材固定ボルト J 3 の軸部をナット部材 J 2 の雌ねじ孔 J 2 1 a にねじ込むことにより、ナット部材 J 2 の本体 J 2 1 と支柱 1 の内壁 1 1 1 とが互いに圧着するとともに、取付部材 J 1 の当接部 J 1 1 と支柱 1 の外壁 1 1 2 とが互いに圧接し、取付部材固定ボルト J 3 の締着が緩むのを抑制し、支柱 1 と横架材 2 とが強固に連結される。

【 0 0 3 1 】

しかして、本実施形態の横架材 2 は、前記第 1 取付部 2 1 を下端部側に位置付けた第 1 姿勢 (P) と、前記第 2 取付部 2 2 を下端部側に位置付けた第 2 姿勢 (Q) との間で上下反転可能なものであり、取り付けるオプション部材に応じて、第 1 姿勢 (P) 又は第 2 姿勢 (Q) の何れかの姿勢で支柱 1 の上端部間に設けられる。

20

【 0 0 3 2 】

第 1 姿勢 (P) で支柱 1 の上端部間に配された横架材 2 に取付可能なオプション部材としては、図 6 に示す可動パネル 3 が挙げられる。

【 0 0 3 3 】

可動パネル 3 は、可動パネル本体 3 1 と、可動パネル本体 3 1 の上端部に設けられ第 1 取付部 2 1 の係わり合い部 2 1 2 に係合可能な可動パネル取付具 3 2 と、可動パネル本体 3 1 の下端部に設けられ床面に接地可能なアジャスタ 3 3 とを備えたものである。本実施形態では、可動パネル本体 3 1 の上端部及び下端部にそれぞれ複数の可動パネル取付具 3 2 及びアジャスタ 3 3 を適宜の固定手段により一体的に固着している。

30

【 0 0 3 4 】

可動パネル取付具 3 2 は、概略円柱状をなし、外周面の一部に下方に向かって漸次径寸法を小さく設定したテーパ面 3 2 a を有する。可動パネル取付具 3 2 の先端部は部分球状をなし、この先端部近傍に第 1 取付部 2 1 の一対の係わり合い部 2 1 2 に引っ掛かり得る鰐部 3 2 b を設けている。

【 0 0 3 5 】

そして、可動パネル 3 を移動不能な状態にするには、アジャスタ 3 3 を調節して可動パネル本体 3 1 を上方へ移動させ、可動パネル取付具 3 2 のテーパ面 3 2 a をそれぞれ係わり合い部 2 1 2 の先端部に圧接させる。この際、テーパ面 3 2 a 自体が弾性変形しながら各係わり合い部 2 1 2 の先端部に圧接することにより、テーパ面 3 2 a と係わり合い部 2 1 2 と間に大きな摩擦抵抗が生じ、この摩擦抵抗により、可動パネル取付具 3 2、ひいては可動パネル 3 全体が横架材 2 の長手方向に沿ってスライド移動不能な状態となる。一方、可動パネル 3 をスライド移動させる場合には、アジャスタ 3 3 を調節して可動パネル本体 3 1 を下方へ移動させ、可動パネル取付具 3 2 のテーパ面 3 2 a と係わり合い部 2 1 2 との圧接状態を解除する。これにより、可動パネル取付具 3 2、ひいては可動パネル 3 全体が横架材 2 の長手方向に沿ってスライド移動可能な状態となる。可動パネル取付具 3 2、ひいては可動パネル 3 全体を横架材 2 の長手方向に沿ってスライド移動させる際、可動パネル取付具 3 2 の鰐部 3 2 b が係わり合い部 2 1 2 の上方又は係わり合い部 2 1 2 に接

40

50

触した位置でこれら係わり合い部 2 1 2 を跨いだ状態となり、横架材 2 の長手方向全域又は略全域に亘って延伸するこれら一对の係わり合い部 2 1 2 が、オプション部材（可動パネル 3）をスライド移動可能に支持するスライド移動案内部として機能する。また、鏝部 3 2 b が係わり合い部 2 1 2 を跨いだ状態で係わり合い部 2 1 2 の上方又は係わり合い部 2 1 2 に接触した位置に位置付けられるため、可動パネル 3 に対して起立姿勢を崩す方向に不意な外力が作用しても、鏝部 3 2 b が係わり合い部 2 1 2 に引っ掛かることによって可動パネル取付具 3 2、ひいては可動パネル 3 全体が横架材 2 から抜け外れるという事態を回避することができる。なお、可動パネル 3 を横架材 2 に取り付ける際には、可動パネル 3 をある程度大きく傾斜させて可動パネル取付具 3 2 の鏝部 3 2 b を係わり合い部 2 1 2 の先端部同士の隙間に挿入しながら順次起立姿勢に近付けていくことにより行う。可動パネル 3 を第 1 取付部 2 1 に取り付けた状態において、可動パネル取付具 3 2 は、第 1 開口部 2 1 3 の開口縁よりも奥方（上方）であって、且つ第 1 対向壁 2 1 1 同士の間に位置付けられ、外部から視認し難い又は視認不能なものとなる。

10

【0036】

可動パネル本体 3 1 として、図 6 に示すようなパネル面がフラットなものや、水平軸回りに回転可能な羽板状のルーバーを高さ方向に所定ピッチで有するもの（図示省略）、或いは収納ボックスや収納トレイ等の収納具を所定高さ位置に設けたもの（図示省略）等、種々のタイプのものを適用しても構わない。

【0037】

また、第 1 姿勢（P）で支柱 1 の上端部間に配された横架材 2 に取付可能なオプション部材としては、可動パネル 3 の他に、図 7 に示す簾状のスクリーン（以下「簾スクリーン 4」と称す）や、図 8 に示すロールスクリーン 5 が挙げられる。

20

【0038】

簾スクリーン 4 は、幕状の簾スクリーン本体 4 1 と、簾スクリーン本体 4 1 の上端部に設けられ第 1 取付部 2 1 の係わり合い部 2 1 2 に係合可能な簾スクリーン取付具 4 2 とを備えたものである。本実施形態では、簾スクリーン 4 を横架材 2 に取り付けた状態で簾スクリーン本体 4 1 の下端部が床面から所定距離離間するように簾スクリーン本体 4 1 の高さ寸法を設定している。簾スクリーン本体 4 1 の全幅に亘って簾スクリーン取付具 4 2 を設けている。

【0039】

簾スクリーン取付具 4 2 は、押出し成形により形成された樹脂製のものであり、第 1 取付部 2 1 の対をなす係わり合い部 2 1 2 を跨ぎ、且つ対向する第 1 対向壁 2 1 1 の内向面に当接又は近接した状態で係わり合い部 2 1 2 に引っ掛け可能な下向き部分円弧状の引っ掛け部 4 2 a と、引っ掛け部 4 2 a の中央位置に設けられ簾スクリーン本体 4 1 の上端部に設けた掛け具 4 1 a を保持し得る保持部 4 2 b とを備えたものである。この簾スクリーン取付具 4 2 を第 1 取付部 2 1 に取り付けるには、簾スクリーン取付具 4 2 を第 1 開口部 2 1 3 の下方から上方に向かって押圧して、一对の係わり合い部 2 1 2 に下方から当たる過程で弾性変形させ、一对の係わり合い部 2 1 2 を乗り越えた時点で弾性復帰力により対向する第 1 対向壁 2 1 1 の内向面に当接又は近接した状態で係わり合い部 2 1 2 に引っ掛けることにより行う。簾スクリーン 4 を第 1 取付部 2 1 に取り付けた状態において、簾スクリーン取付具 4 2 は、第 1 開口部 2 1 3 の開口縁よりも奥方（上方）であって、且つ第 1 対向壁 2 1 1 同士の間に位置付けられ、外部から視認し難い又は視認不能なものとなる。

30

40

【0040】

ロールスクリーン 5 は、ロールスクリーン本体 5 1 と、ロールスクリーン本体 5 1 に付属の専用取付金具 5 2 と、専用取付金具 5 2 に適宜の固定手段により一体的に取り付けられ且つ第 1 取付部 2 1 の係わり合い部 2 1 2 に係合可能なロールスクリーン取付具 5 3 とを備えたものである。本実施形態では、ロールスクリーン本体 5 1 の上端部に前記専用取付金具 5 2 を所定ピッチ離間させて設け、これら各専用取付金具 5 2 にそれぞれロールスクリーン取付具 5 3 を適宜の固定手段により一体的に固着している。

50

【 0 0 4 1 】

ロールスクリーン取付具 5 3 は、対をなす係わり合い部 2 1 2 の先端部同士の離間寸法より僅かに小さい径寸法を有する小径円柱部 5 3 a と、対をなす係わり合い部 2 1 2 の先端部同士の離間寸法より大きい径寸法を有し、対をなす係わり合い部 2 1 2 を上方から跨いだ状態で係わり合い部 2 1 2 に引っ掛け可能な大径円盤部 5 3 b とを一体に有するものである。このロールスクリーン取付具 5 3 を係わり合い部 2 1 2 の長手方向（横架材 2 の長手方向）に沿ってスライド移動させることにより、ロールスクリーン 5 全体が横架材 2 の長手方向にスライド移動させることが可能である。ロールスクリーン 5 を第 1 取付部 2 1 に取り付けた状態において、ロールスクリーン取付具 5 2 は、第 1 開口部 2 1 3 の開口縁よりも奥方（上方）であって、且つ第 1 対向壁 2 1 1 同士の間に位置付けられ、外部から視認し難い又は視認不能なものとなる。

10

【 0 0 4 2 】

また、図 8 に示すように、横架材 2 が第 1 姿勢（P）にある場合、上方に開口する第 2 開口部 2 2 3 を有する第 2 取付部 2 2 に、展開したロールスクリーン本体 5 1 を照らし得るスポットライト L を取り付けてもよい。スポットライト L は、第 2 取付部 2 2 の収容部 2 2 2 に載置した状態で収容されたスポットライト取付具 L 1 と、スポットライト取付具 L 1 から横架材 2 の厚み方向に向かって延伸し先端部を下方に向かって傾斜させたアーム部 L 2 と、アーム部 L 2 の先端部に設けたスポットライト本体 L 3 とを備えたものである。スポットライト取付具 L 1 は、ロールスクリーン本体 5 1 よりも幅寸法を小さく設定したものであり、このスポットライト取付具 L 1 を収容部 2 2 2 に収容した状態（第 1 接続壁 2 4 1 に載置した状態）で一对の第 2 対向壁 2 2 1 にガイドさせながら横架材 2 の長手方向に沿ってスライド移動させることにより、スポットライト L 全体が横架材 2 の長手方向にスライド移動させることが可能である。スポットライト本体 L 3 は、展開したロールスクリーン本体 5 1 を照明する方向に向けられている。

20

【 0 0 4 3 】

一方、第 2 姿勢（Q）で支柱 1 の上端部間に配された横架材 2 に取付可能なオプション部材としては、図 9 ～ 図 1 1 に示す各種固定パネル（クリアパネル 6、ホワイトボードパネル 7、タッカブルパネル 8）が挙げられる。

【 0 0 4 4 】

これら各種固定パネル（クリアパネル 6、ホワイトボードパネル 7、タッカブルパネル 8）を横架材 2 に取り付けるに際しては、予め、支柱 1 の下端部間に下部横架材 9 を取り付けている。下部横架材 9 は、押出し成形により形成され、上方及び下方に向かって開口する上方開口部 9 1 及び下方開口部 9 2 を有する概略角筒状のものである。下部横架材 9 の厚み方向に対向する一对の対向壁 9 3 間の離間寸法を、第 2 対向壁 2 2 1 間の離間寸法と同一又は略同一に設定するとともに、本実施形態では、上方開口部 9 1 の開口縁、換言すれば各対向壁 9 3 の上端部に、上方開口部 9 1 の開口寸法を狭める方向に突出し、オプション部材の一部が当接又は近接する一对の当たり部 9 3 a を設けている。各当たり部 9 3 a の突出端部間の離間寸法を、第 2 取付部 2 2 の前記当たり部 2 2 1 a の突出端部間の離間寸法と同一又は略同一に設定している。下部横架材 9 は、各当たり部 9 3 a よりも下方に寄った位置に対向壁 9 3 同士を接続する接続壁 9 4 を備え、この接続壁 9 4 が、オプション部材（クリアパネル 6、ホワイトボードパネル 7、タッカブルパネル 8）の下端部を載置した状態で支持する支持壁として機能する。なお、下部横架材 9 自体は、床面から離間した位置に配されるものであり、下部横架材 9 の下端部に所定ピッチで下部横架材用アジャスタ 9 5 を設けている。

30

40

【 0 0 4 5 】

各固定パネル（クリアパネル 6、ホワイトボードパネル 7、タッカブルパネル 8）は、横架材 2 と下部横架材 9 との間に取付可能なものである。

【 0 0 4 6 】

クリアパネル 6 は、例えばアクリル樹脂製の薄型（例えば厚み寸法 5 mm）のクリアパネル本体 6 1 と、クリアパネル本体 6 1 の上端部及び下端部をそれぞれ挟持し且つ収容部

50

2 2 2 に收容可能な上下一対のクリアパネル取付具 6 2 とを備えたものである。各クリアパネル取付具 6 2 は、クリアパネル本体 6 1 の挟持可能な一对の挟持部 6 2 a と、対をなす当たり部 2 2 1 a (又は対をなす当たり部 9 3 a) に挟持される被挟持部 6 2 b とを備えたものである。このようなクリアパネル 6 を横架材 2 と下部横架材 9 との間に取り付ける作業は、先ず、クリアパネル 6 を所定角度傾斜させた状態で、上側のクリアパネル取付具 6 2 を第 2 取付部 2 2 の第 2 開口部 2 2 3 から收容部 2 2 2 内に收容させながら上方へ持ち上げつつ、クリアパネル 6 全体を徐々に起立姿勢に近付け、引き続き、下側のクリアパネル取付具 6 2 を下部横架材 9 の上方開口部 9 1 に上方から落とし込む一連の作業、いわゆるけんどん方式によって行う。このような作業により横架材 2 と下部横架材 9 との間にクリアパネル 6 を取り付けた状態において、各クリアパネル取付具 6 2 の被挟持部 6 2 b がそれぞれ対をなす当たり部 2 2 1 a 又は対をなす当たり部 9 3 a に挟持されるため、クリアパネル 6 全体がガタツキの無い状態で横架材 2 と下部横架材 9 との間に保持される。また、クリアパネル取付具 6 2 の被挟持部 6 2 b に、対をなす当たり部 2 2 1 a 又は対をなす当たり部 9 3 a に当接し、且つ第 2 開口部 2 2 3 に挿入する際又は上方開口部 9 1 に挿入する際に当たり部 2 2 1 a 又は当たり部 9 3 a に添接し得る一对のガイド壁 6 2 c を設けている。

【0047】

ホワイトボードパネル 7 は、例えば第 2 開口部 2 2 3 の開口縁における開口寸法、換言すれば対をなす当たり部 2 2 1 a の突出部同士間の離間寸法より若干小さい厚み寸法を有するホワイトボードパネル本体 7 1 を主体としてなり、前記けんどん方式によって横架材 2 と下部横架材 9 との間に取付可能なものである。横架材 2 と下部横架材 9 との間にホワイトボードパネル 7 を取り付けた状態において、ホワイトボードパネル本体 7 1 の上端部及び下端部がそれぞれ対をなす当たり部 2 2 1 a 又は対をなす当たり部 9 3 a に挟持されるため、ホワイトボードパネル 7 全体がガタツキの無い状態で横架材 2 と下部横架材 9 との間に保持される。

【0048】

タッカブルパネル 8 は、例えば第 2 開口部 2 2 3 の開口縁における開口寸法、換言すれば対をなす当たり部 2 2 1 a の突出部同士間の離間寸法より若干小さい厚み寸法を有するタッカブルパネル本体 8 1 を主体としてなり、前記けんどん方式によって横架材 2 と下部横架材 9 との間に取付可能なものである。横架材 2 と下部横架材 9 との間にタッカブルパネル 8 を取り付けた状態において、タッカブルパネル本体 8 1 の上端部及び下端部がそれぞれ対をなす当たり部 2 2 1 a 又は対をなす当たり部 9 3 a に挟持されるため、タッカブルパネル 8 全体がガタツキの無い状態で横架材 2 と下部横架材 9 との間に保持される。なお、タッカブルパネル 8 とは、パネル面に資料やメモ等をピンで留めることが可能なパネルのことである。

【0049】

さらに、第 2 姿勢 (Q) で支柱 1 の上端部間に配された横架材 2 に取付可能なオブション部材としては、横架材 2 の長手方向に沿ってスライド移動可能な照明装置 (図示省略) が挙げられる。この照明装置は、第 2 取付部 2 2 の收容部 2 2 2 に收容されるライティングレールと、ライティングレールに支持される照明本体とを備えたものが挙げられる。

【0050】

本実施形態に係る横架材 2 は、第 1 対向壁 2 1 1 と前記第 2 対向壁 2 2 1 との間に形成したスリット 2 5 を利用して、前述した各オブション部材とは異なる他のオブション部材、具体的には、図 1 2 に示すように、平面視において対向する横架材 2 同士の上に架けられる中間フレーム A を取付可能に構成している。

【0051】

中間フレーム A は、押出し成形により形成した長尺の中間フレーム本体 A 1 と、中間フレーム本体 A 1 の両端部にそれぞれ設けた中間フレーム取付具 A 2 とを備えたものである。中間フレーム本体 A 1 は、概略四角筒状をなし、少なくとも下向面の厚み方向中央部に開口凹部 A 1 1 を形成している。また、中間フレーム本体 A 1 の高さ寸法を、横架材 2 の

高さ寸法の半分より若干小さい寸法に設定している。中間フレーム取付具 A 2 は、中間フレーム本体 A 1 の側端面に一体的に設けられ、起立壁 A 2 1 1、起立壁 A 2 1 1 の上端に形成した下向き L 字状の上部引っ掛け部 A 2 1 2、及び起立壁 A 2 1 1 の下端部近傍部位であって前記中間フレーム本体 A 1 の開口凹部 A 1 1 内に位置付けられるネジ軸 A 2 1 3 とを有する中間フレーム第 1 取付具 A 2 1 と、前記開口凹部 A 1 1 内に収まる幅寸法及び高さ寸法に設定し、且つ幅中央部に高さ方向に延びる長孔 A 2 2 1 a を形成した起立壁 A 2 2 1、及び起立壁 A 2 2 1 の下端に形成した上向き L 字状の下部引っ掛け部 A 2 2 2 を有する中間フレーム第 2 取付具 A 2 2 と、ネジ軸 A 2 1 3 に螺合可能なナット A 2 3 とを備えたものである。

【0052】

このような中間フレーム A を横架材 2 のスリット 2 5 を利用して取り付ける手順を説明する。なお、中間フレーム A は、スリット 2 5 及び第 1 対向壁 2 1 1 を利用して横架材 2 に取り付けることが可能であるとともに、スリット 2 5 及び第 2 対向壁 2 2 1 を利用して横架材 2 に取り付けることも可能である。図 1 2 では、スリット 2 5 及び第 2 対向壁 2 2 1 を利用して第 1 姿勢 (P) にある横架材 2 の上半部側に中間フレーム A を取り付けた状態を示しており、この場合の取付手順について説明する。予め中間フレーム A の開口凹部 A 1 1 に位置付けられるネジ軸 A 2 1 3 に長孔 A 2 2 1 a を通し、中間フレーム第 1 取付具 A 2 1 に中間フレーム第 2 取付具 A 2 2 を高さ方向に移動自在な状態で支持させておく。そして、中間フレーム第 1 取付具 A 2 1 の上部引っ掛け部 A 2 1 2 を第 2 対向壁 2 2 1 の先端部に引っ掛け、次いで、スリット 2 5 内に挿入した中間フレーム第 2 取付具 A 2 2 の下部引っ掛け部 A 2 2 2 を第 2 対向壁 2 2 1 の基端部に引っ掛かる位置までこの中間フレーム第 2 取付具 A 2 2 を上方へ移動させる。この状態、つまり、上部引っ掛け部 A 2 1 2 及び下部引っ掛け部 A 2 2 2 をそれぞれ第 2 対向壁 2 2 1 の先端部及び基端部に引っ掛けた状態で、ネジ軸 A 2 1 3 にナット A 2 3 を螺合させて締め付けることにより、中間フレーム第 2 取付具 A 2 2 が中間フレーム第 1 取付具 A 2 1 に対して移動不能に固定される。以上の手順により、中間フレーム A を横架材 2 にガタツキの無い状態で取り付けることができる。なお、中間フレーム A の開口凹部 A 1 1 内において露出するナット A 2 3 及びネジ軸 A 2 1 3 を図示しないキャップによって被覆しても構わない。

【0053】

また、スリット 2 5 及び第 1 対向壁 2 1 1 を利用して第 1 姿勢 (P) にある横架材 2 の下半部側に中間フレーム A を取り付ける場合も上記手順に準じて行うことができ、スリット 2 5 に挿入した上部引っ掛け部 A 2 1 2 を第 1 対向壁 2 1 1 の基端部に引っ掛けるとともに、下部引っ掛け部 A 2 2 2 を第 2 対向壁 2 2 1 の先端部に引っ掛けた状態で、ネジ軸 A 2 1 3 にナット A 2 3 を螺合させて締め付けることにより、中間フレーム A を横架材 2 にガタツキの無い状態で取り付けることができる。

【0054】

もちろん、第 2 姿勢 (Q) にある横架材 2 にも、スリット 2 5 を利用して中間フレーム A を取り付けることが可能である。第 2 姿勢 (Q) にある横架材 2 の上半部側に横架材 2 を取り付ける場合には、上部引っ掛け部 A 2 1 2 を第 1 対向壁 2 1 1 の先端部に引っ掛けるとともに、スリット 2 5 に挿入した下部引っ掛け部 A 2 2 2 を第 1 対向壁 2 1 1 の基端部に引っ掛ける状態となり、第 2 姿勢 (Q) にある横架材 2 の下半部側に横架材 2 を取り付ける場合には、スリット 2 5 に挿入した上部引っ掛け部 A 2 1 2 を第 2 対向壁 2 2 1 の基端部に引っ掛けるとともに、下部引っ掛け部 A 2 2 2 を第 2 対向壁 2 2 1 の先端部に引っ掛ける状態となる。

【0055】

また、対向する横架材 2 に架設した中間フレーム A は、ネジ軸 A 2 1 3 とナット A 2 3 とによる締付状態を解除することにより、中間フレーム第 2 取付具 A 2 2 が下方に移動して下部引っ掛け部 A 2 2 2 の引っ掛け状態も解除され、中間フレーム A が横架材 2 の長手方向に沿ってスライド移動可能な状態となる。そして、使用態様やレイアウト変更等に応じて中間フレーム A を横架材 2 の長手方向に移動させ、所望の位置に到達させた時点で、

下部引っ掛け部 A 2 2 2 が引っ掛け状態となる位置まで中間フレーム第 2 取付具 A 2 2 を上方に移動させて、ネジ軸 A 2 1 3 とナット A 2 3 とを再度締め付けることにより、中間フレーム A はスライド移動不能な状態となる。このように、中間フレーム A の取付位置を変更可能に構成することにより、中間フレーム A に照明装置や各種パネル等のオプション部材を取り付けた状態で中間フレーム A をスライド移動させた場合には、照明装置や各種パネル等のオプション部材の配置位置も簡単に変更することができる。

【 0 0 5 6 】

このように、本実施形態に係る横架材 2 は、複数種類のオプション部材のうち一又は複数のオプション部材（可動パネル 3、簾スクリーン 4、ロールスクリーン 5）を取り付けるための第 1 取付部 2 1 と、第 1 取付部 2 1 に対して上下方向に離間し、第 1 取付部 2 1 に取付可能なオプション部材とは異なる他のオプション部材（クリアパネル 6、ホワイトボードパネル 7、タッカブルパネル 8、照明装置）を取り付けるための第 2 取付部 2 2 とを備えて、取り付けるオプション部材に応じて、第 1 取付部 2 1 を下端部側に位置付けた第 1 姿勢（P）と、第 2 取付部 2 2 を下端部側に位置付けた第 2 姿勢（Q）との間で上下反転可能なものであるため、第 1 取付部 2 1 に取付可能なオプション部材（可動パネル 3、簾スクリーン 4、ロールスクリーン 5）を横架材 2 に取り付ける場合には、横架材 2 を第 1 姿勢（P）の状態で支柱 1 の上端部間に配置すればよく、一方、第 2 取付部 2 2 に取付可能なオプション部材（クリアパネル 6、ホワイトボードパネル 7、タッカブルパネル 8、照明装置）を横架材 2 を取り付ける場合には、横架材 2 を上下反転させて第 2 姿勢（Q）の状態で支柱 1 の上端部間に配置すればよく、横架材 2 に取り付けるオプション部材の種類が多種に亘る場合であっても、全てのオプション部材が同一の取付対象部（単一の取付部）にのみ取付可能なものでなければならないという設計上の制約が生じず、取付構造が異なる複数種類のオプション部材を、横架材 2 を上下反転させることにより好適に取り付けることができる。

【 0 0 5 7 】

特に、第 1 取付部 2 1 が、厚み方向に対向する一対の第 1 対向壁 2 1 1 と、これら各第 1 対向壁 2 1 1 の内向面に設けられオプション部材の一部、具体的には、可動パネル取付具 3 2、簾スクリーン取付具 4 2、ロールスクリーン取付具 5 3 が係わり合う係わり合い部 2 1 2 とを備えたものであり、第 2 取付部 2 2 が、厚み方向に対向する一対の第 2 対向壁 2 2 1 と、これら各第 2 対向壁 2 2 1 間に形成されオプション部材の一部又は全部、具体的には、クリアパネル取付具 6 2、ホワイトボードパネル本体 7 1 の上端部、タッカブルパネル本体 8 1 の上端部、照明装置のライティングレールが収容可能な収容部 2 2 2 とを備えているため、これら係わり合い部 2 1 2 及び収容部 2 2 2 を利用して各オプション部材の良好な取付状態を確保することができるとともに、オプション部材の取付に積極的に寄与するこれら係わり合い部 2 1 2 及び収容部 2 2 2 がそれぞれ対をなす第 1 対向壁 2 1 1、第 2 対向壁 2 2 1 によって外部から視認できない又は視認しづらいため、看者に煩雑な印象を与えないシンプルな外観を呈するものとなる。

【 0 0 5 8 】

さらに、横架材 2 の長手方向に沿った全域又は略全域に設けた一対の係わり合い部 2 1 2 が、オプション部材（可動パネル 3、ロールスクリーン 5）をスライド移動可能に支持するスライド移動案内部としても機能するものであり、別途専用のスライド移動案内部を設ける必要がなく、構造の簡略化及びコストの削減に資する。

【 0 0 5 9 】

加えて、第 1 対向壁 2 1 1 及び前記第 2 対向壁 2 2 1 が、外見上同一又は略同一であるため、支柱 1 の上端部間に横架材 2 を第 1 姿勢（P）、第 2 姿勢（Q）、何れの姿勢で支持させても、外見上に差異が表れず、例えば、複数の横架材 2 を配設したオフィス空間において、各横架材 2 の姿勢が異なっても看者に煩雑な印象を与えることがなく、統一された外観を呈するものとなる。

【 0 0 6 0 】

また、第 1 対向壁 2 1 1 と第 2 対向壁 2 2 1 との間にスリット 2 5 を形成し、各第 1 対

向壁 2 1 1 単体及び各第 2 対向壁 2 2 1 単体に、第 1 取付部 2 1 及び第 2 取付部 2 2 に取付可能なオプション部材とはさらに異なるオプション部材、具体的には中間フレーム A を、その一部をスリット 2 5 内に挿入した状態で取付可能に構成しているため、第 1 取付部 2 1 に取付可能なオプション部材や第 2 取付部 2 2 に取付可能なオプション部材とはさらに異なるオプション部材である中間フレーム A を横架材 2 に取り付けることが可能となり、種々の使用態様にも柔軟に対応することができる。

【0061】

なお、本発明は、以上に詳述した実施形態に限られるものではない。

【0062】

例えば、横架材として、平面視部分円弧状（例えば 4 分の 1 円弧状等）のものを適用してもよい。このような横架材を複数用いることにより平面視円形状のフレーム構造体（空間構成設備）を形成することが可能となる。

10

【0063】

また、横架材は、高さ方向に離間して設けた第 1 取付部及び第 2 取付部を備えたものであればよく、横断面円形状又は略円形状、或いは横断面楕円形状又は略楕円形状のものであって構わない。

【0064】

また、オプション部材として、前記実施形態で例示したもの以外のものを適用しても構わない。

【0065】

その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

20

【図面の簡単な説明】

【0066】

【図 1】本発明の一実施形態に係る横架材を用いたフレーム構造体（空間構成設備）の基本モジュールを示す斜視図。

【図 2】図 1 の平面を模式的に示す図。

【図 3】同実施形態に係る横架材と支柱との接続部位を一部断面にして示す平面図。

【図 4】図 3 における中央断面図。

【図 5】図 3 における x—x 線端面図。

30

【図 6】同実施形態において第 1 姿勢の横架材に可動パネルを取り付けた状態を図 5 に対応させて示す図。

【図 7】同実施形態において第 1 姿勢の横架材に簾スクリーンを取り付けた状態を図 5 に対応させて示す図。

【図 8】同実施形態において第 1 姿勢の横架材にロールスクリーンを取り付けた状態を図 5 に対応させて示す図。

【図 9】同実施形態において第 1 姿勢の横架材にクリアパネルを取り付けた状態を図 5 に対応させて示す図。

【図 10】同実施形態において第 1 姿勢の横架材にホワイトボードパネルを取り付けた状態を図 5 に対応させて示す図。

40

【図 11】同実施形態において第 1 姿勢の横架材にタッカブルパネルを取り付けた状態を図 5 に対応させて示す図。

【図 12】同実施形態において第 1 姿勢の横架材に中間フレームを取り付けた状態を図 5 に対応させて示す図。

【符号の説明】

【0067】

1 ... 支柱

2 ... 横架材

2 1 ... 第 1 取付部

2 1 1 ... 第 1 対向壁

50

2 1 2 ... 係わり合い部

2 2 ... 第 2 取付部

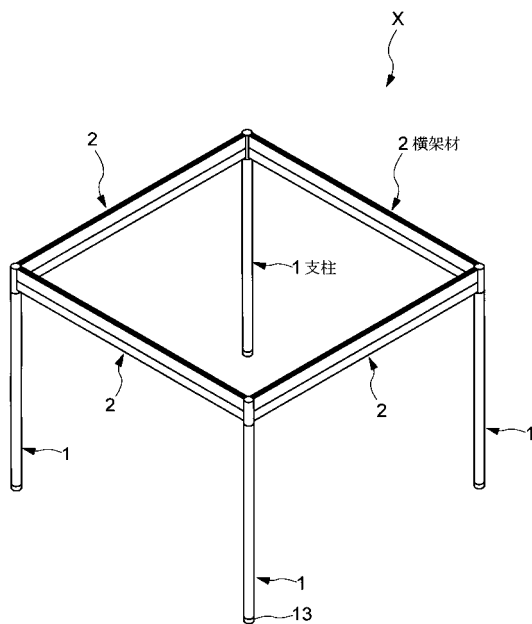
2 2 1 ... 第 2 対向壁

2 2 2 ... 収容部

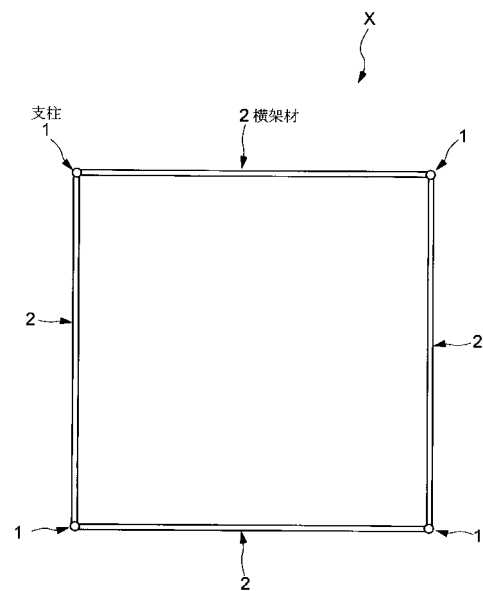
2 5 ... スリット

3、4、5、6、7、8、A ... オプション部材（可動パネル、簾スクリーン、ロールスクリーン、クリアパネル、ホワイトボードパネル、タッカブルパネル、中間フレーム）

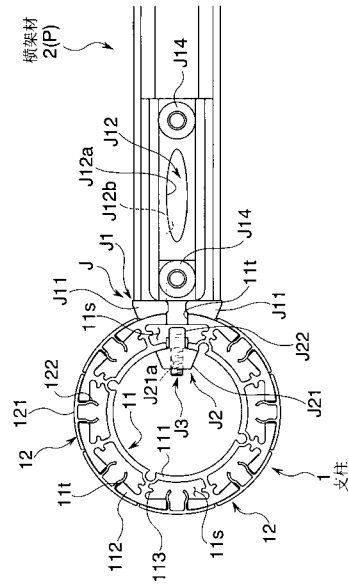
【 図 1 】



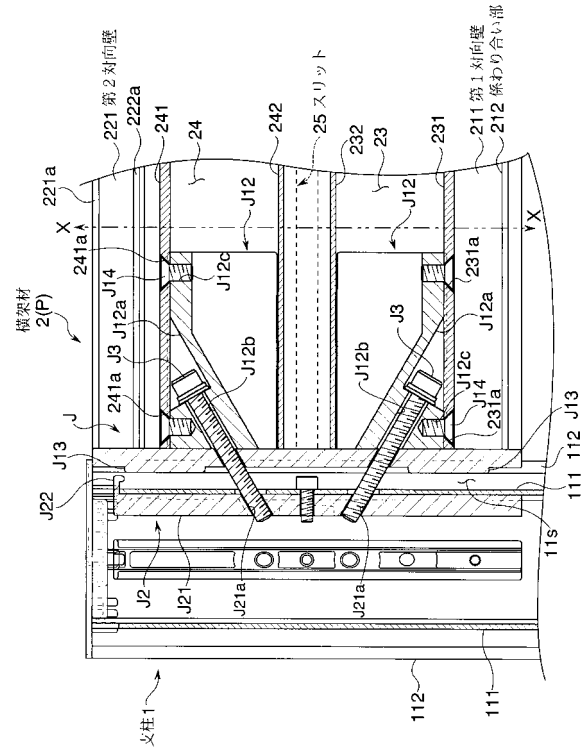
【 図 2 】



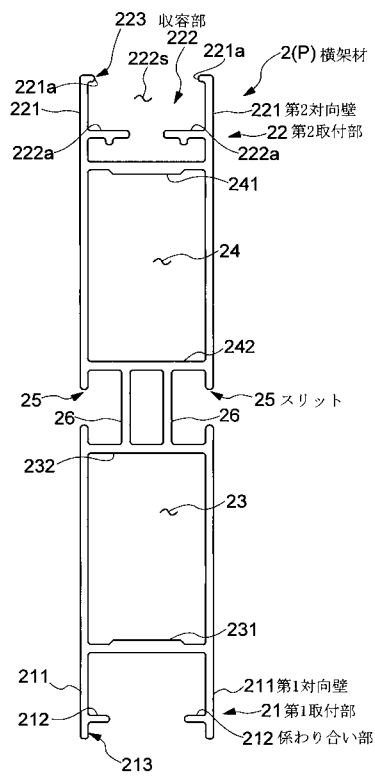
【図 3】



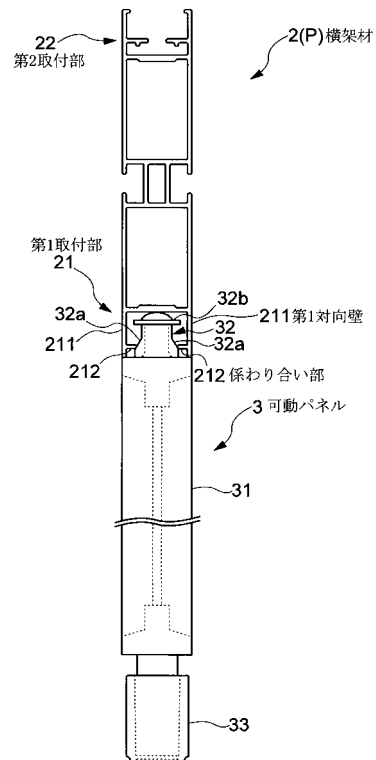
【図 4】



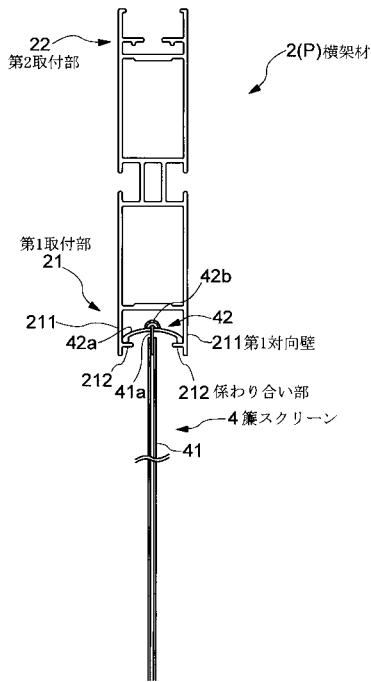
【図 5】



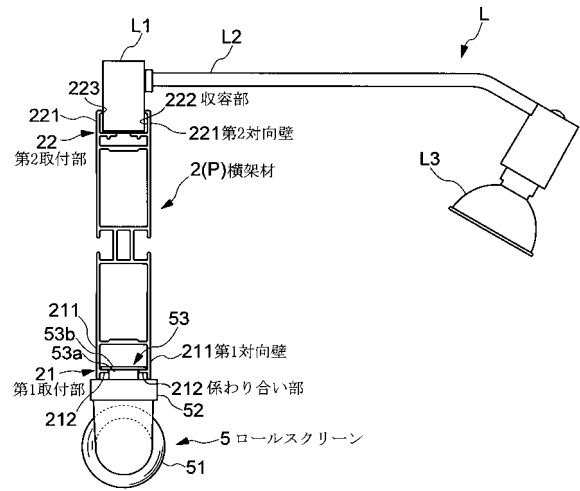
【図 6】



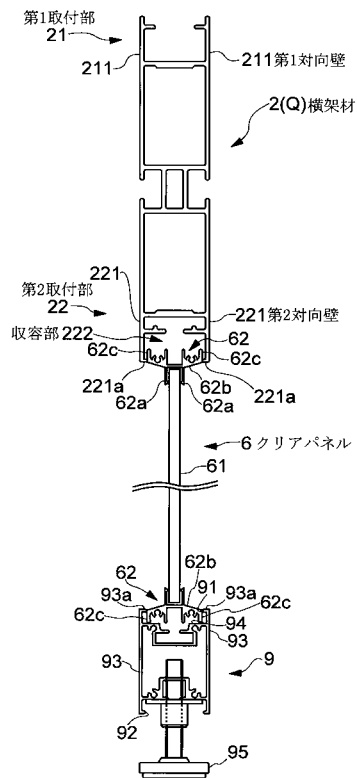
【 図 7 】



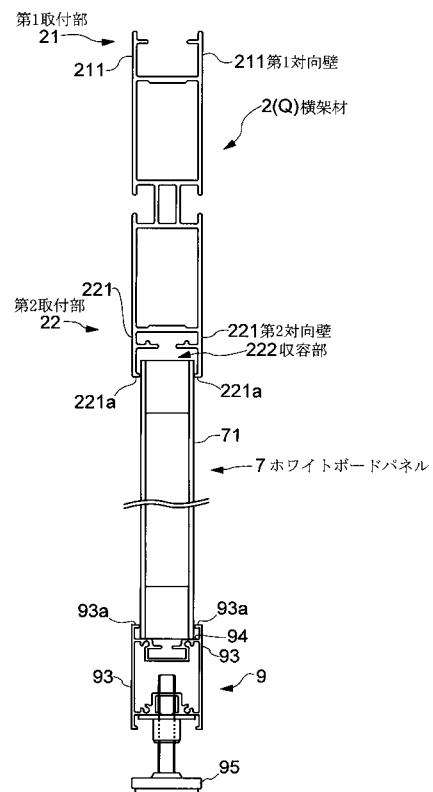
【 図 8 】



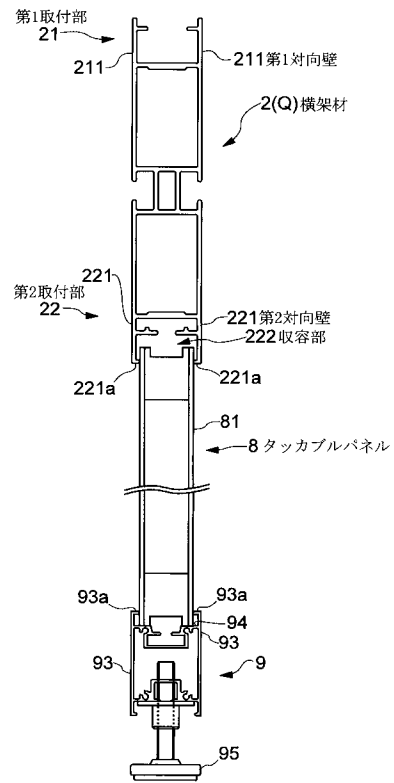
【 図 9 】



【 図 10 】



【図 1 1】



【図 1 2】

